

若年者ものづくり競技大会(フライス盤職種)への挑戦

沖縄県立南部工業高等学校 教諭 真境名隼人

1 はじめに

本校は昭和43年(1968)「琉球政府立南部産業技術学校」として創立し、昭和47年(1972)に「沖縄県立南部工業高等学校」に名称を変更。現在は機械科、電気科、建築設備科の3学科を設置し、工業の専門知識や技術・技能習得を目標とした教育を行っている。

2 機械科のものづくりへの取り組み

機械科では、実習や課題研究等の授業でものづくりを学んでいるが、より興味を持った生徒は機械工作部に入部し、日頃の活動の中で知識と技術を深めている。機械工作部は、フライス班、旋盤班、溶接班、メカトロニクス班、エコデン班、スターリングテクノロジー班の6班で構成され、約30名の生徒が部活動でものづくりを楽しんでいる。今回は、第17回若年者ものづくり競技大会フライス盤職種で金賞・厚生労働大臣賞を受賞した長田聖也さん(フライス盤班)の活動について紹介する。

3 活動について

活動は放課後や休日に行い、選手に主体性をもたせるよう工夫している。県大会での加工手順は私がベースを考えたが、今大会では長田さんにすべてまかせ、うまくいかないところのみアドバイスをを行った。加工に使用する刃物等についても、本人が必要なものをピックアップし、私は予算の範囲内での購入調整のみ行った。今年度はコロナ禍で活動に制限がかかり練習時間が確保できず厳しい状況であったが、ICT(Office365)を活用し、細かくPDCAサイクルをまわすことで効率よく練習に取り組むことができた。ところが順調に練習を重ねていたある日、彼が手首を痛めてしまい、通し練習はわずか3セットしかできなかった。さらに本校実習室が工事で使えなくなり、他校で練

習せざるを得ないというアクシデントも重なった。この状況の中、彼が本番で落ち着いて作業ができたのは、まさにこの慣れない場所での練習のおかげであった。緊張で大きなミスをしながらも大会前に1セット削ったことが自信となり競技に臨むことができたのである。

4 長田聖也さんの感想

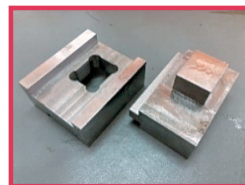
初めての全国大会だったが、緊張せずリラックスして競技に参加できた。県大会では2位で悔しい思いをしたが、今回の若年者ものづくり競技大会ではミスを少なくするよう努力し、100点満点中90点台を獲得することができた。技能五輪選手の動画を見て自分に合う手順を研究し競技に臨んだが、納得できる作品を作れなかった。ぜひ、次年度も参加したい。また、夢である技能五輪のフライス盤職種に出場できるよう練習を頑張りたい。今回の大会に出場するにあたり工具や刃物、材料の準備をしてくださった先生方や応援してくれた機械工作部の部員に感謝している。この経験を今後の学校生活や進路に活かしていきたい。

5 おわりに

長田さんは、ものづくりが大好きで1年次には、溶接大会やエコデンレース、メカトロニクス県大会や全国大会に参加し入賞するなど優秀な成績を収めている。今回金賞受賞となったが、フライス盤を初めてわずか8か月。まだまだ成長段階にあり可能性に溢れている。今後は彼の夢である技能五輪出場に向け指導しサポートしていきたい。



【切削練習】



【フライス盤職種の課題】